

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年三月度 入選句（投稿総数千三百七十句・小中学投句数九百七十一句）

特選

まつ 白いたいそうふくにかぜひかる 大垣市 伊藤 晟彦(小二) 選者 名和 よちゑ

風光るは、冬が過ぎて暖かくなる時期に、より強く感じられるので、春の季語となっています。ことに天気の良い時に吹く風は、きらきらと輝くように感じられます。新学期を迎えると持ち物が何もかも新しくなります。白いうわばぎ、白いくつ下、毎日着る体操服も新しく用意されたですね。春のわくわくした気持ちが良く表われています。

ざん 雪がひやりとしみる春のくつ 大垣市 オイデ マサヒロ(小四)

残雪は、春になつても消えずに残っている雪をいいます。春の季語です。家の日陰などに残っていることがあります。暖かくなり、明るい色のくつで歩いていると雪のつめたさが伝わってきたのですね。下五に春のくつとあるので季語が二つ重なりましたがとても新鮮な良い句になりました。春とはいえまだ空気の冷たさまで感じ取ることができました。

ボート 漕ぐ声を真下に橋渡る 加茂郡川辺町 藤井 徳人中(三)

ボートは一年中見かけますが夏の季語です。池や湖で見かける二、三人用のものもあれば、学生や社会人の競技用もあります。掲句は後者と解釈しました。橋を渡っていると、学生達がいっせいに声を揃え、さつそうと進んでいきます。見ている作者まで元気をもらい、足どりも軽くなつていく様子が想像されます。さわやかな句になりました。

秀逸

ホームランフエンスをこえてかれはちる	大垣市	衣斐	彩乃(小六)
ピラピラと最後のページカレンダー	大垣市	説田	颯希(小六)
ハムスター台からおちて山笑う	大垣市	伊藤	璃星(小六)
夏終わるのどにつかえるコツペパン	大垣市	藤井	詩音(小六)
自転車で桜吹雪をかけぬける	加茂郡川辺町	朝日	漣(中三)
そののけと春一番のお通りだ	加茂郡川辺町	後藤	蓮誠(高一)
あめやんでたいようでたら春のにじ	大垣市	大橋	心麦(小四)
ひなまつりみんながわらう人形も	大垣市	近澤	茉奈(小四)
手ぶくろをはめてぼかぼかグーチョコキパー	大垣市	廣瀬	美貴子(小五)

入選

出陣だ敵のじんちへ雪合戦	大垣市	草野	隼人(小六)
休日は祖母の手料理みそおでん	大垣市	海平	知南(小六)
水温むバケツの中があたたかい	加茂郡川辺町	大角	彩流(高二)
それぞれが違う春の道歩きだす	加茂郡川辺町	中村	怜美那(高一)
おとしだまおさつのひとがわらってる	大垣市	平松	由愛(小三)
あめあがりそらを見あげてはるのにじ	大垣市	川瀬	結愛(小四)
このはちるいちまいもなくさむそうだ	大垣市	三輪	有希(小四)
はるだからにわにたねをねまこうかな	大垣市	相坂	宥心(小四)
しゃぼん玉パツときえてもう一回	大垣市	大橋	心麦(小四)
通学路すきまにはえるたんぼぼが	大垣市	近澤	茉奈(小四)

入選

あたたかいちようがひらりと止まったよ	大垣市	たかはし	ゆき(小四)
春セーターははのぬくもりつまってる	大垣市	篠田	明璃(小四)
薬局のマスクコーナー人ばかり	大垣市	高橋	凧咲(小五)
はなのみちそらを見あげてしんこきゆう	大垣市	いとう	のぞみ(小二)
しもやけで手足の指がさつまいも	大垣市	小川	泰宜(中二)
桜さくいろんな思い出よみがえる	大垣市	齋藤	峻(中二)
春がきた新しい心でセーラー服	大垣市	仙石	花梨(中二)
たこ上げて空にプカんとうかんでる	大垣市	市川	瑛斗(小四)
ねこの子の足あととどつてみいつけた	大垣市	山口	りん太ろう(小四)
みどりのはひかりまぶしいぼたんのめ	大垣市	秋吉	音弥(小三)

選者吟

さへづりやハートの浮かぶカフェラッテ

よちゑ